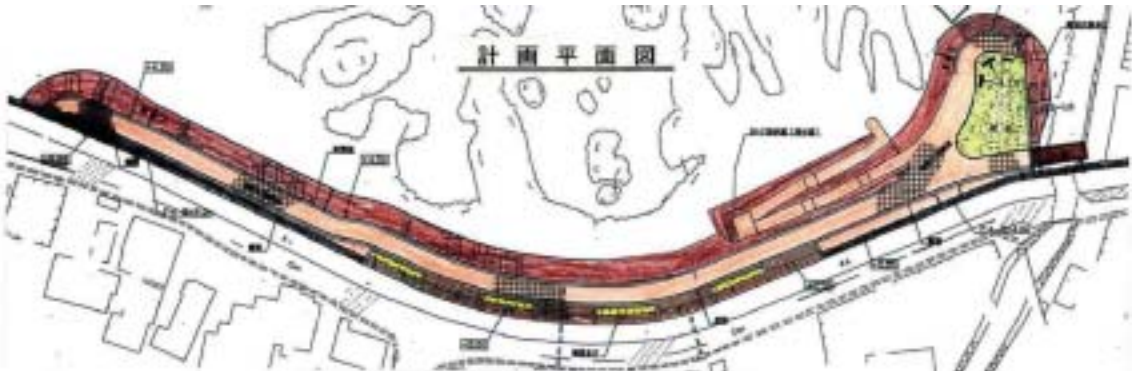


事例No.13		
事業名	海岸環境整備事業	事例キーワード 景観配慮、親水性
事業担当機関	山本地域振興局農林部農村整備課	
事業期間	平成13年～14年度	
実施場所	山本郡八森町岩館	
事業概要	全体事業費	151百万円
	工事概要	護岸 L=183m
	事業の目的	昭和42年から昭和45年に整備した護岸が、経年変化による老朽化が激しく、また、護岸背後の集落及び町道が台風や冬季風浪による越波被害を受け、住民生活に支障をきたしていた。これらを解消し、併せて親水性のある護岸整備を計画したものである。 なお、護岸工事は県立自然公園の中に位置していることから景観との調和を考慮して整備した。
環境配慮の内容	1. 海岸法線は、風光明媚な奇岩怪礁が連なる海岸線を破壊しないように計画した。 2. 護岸の海側は、現地の岩礁と似ている自然石（1トン内外）を乱積みし、陸側は、町道から出入りする既設階段の一部を利用して花壇4箇所を設けた。さらに、既設階段と花壇を陶製ブロックで化粧を施し、周囲の景観とマッチさせた。 3. 護岸水叩き部分を遊歩道として利用するため、舗装面は御影石張りを施して周辺の環境に違和感を与えないようにした。 4. 本施設の遊歩道と、隣接する岩館海水浴場の遊歩道を木橋で結び、利便性を図るとともに景観を損ねないようにした。 5. 創出される護岸海側の用地は、地域住民の憩いの場として利用できるよう、野芝で緑化しベンチは石材で造って環境に配慮した。	
施工後の状況	1. 越波被害が解消され、住民生活の安定や交通障害の解消に寄与している。 2. 遊歩道や緑地は、地域住民の散策路として利用され、憩いの場を提供している。 3. 親水性を図るため岩場へ降りられるようにスロープを造ったことで、身障者や幼児でも楽に海と親しめるようになった。 4. 本施設と隣接施設の機能を一体化したことにより、夏は県内外からの観光客や海水浴客で大混雑するほどの賑わいを見せている。また、岩場は子ども達の磯釣りやカニ捕りなどの絶好の遊び場となっている。	

図面、写真、説明



花壇・遊歩道・自然石護岸(海側)、階段護岸(陸側)

標準断面図



緑地とベンチ



隣接する岩館海水浴場とを結ぶ木橋



遊歩道と海岸へ続くスロープ